

実践事例⑥ 板橋区立蓮根小学校

1 取組・活動名

「共に生きる」～福祉について考えよう～

2 取組・活動のねらい

- アイマスクや疑似体験セットなどを活用し、高齢者・障害者の生活を想起する活動を通して、社会福祉の必要性について考える。
- 高齢者・障害者に関わる福祉について調べ、自分の暮らす地域社会に福祉の考えが生かされていることや、さらに発展させていく必要があることを知る。
- 訪問・交流活動を通して、高齢者・障害者と自分の関わりについて考えを深める。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・20時間」

4 実施上の工夫

<福祉施設訪問>

- ・ 近隣の福祉施設に訪問する機会を設け、交流会を行う。実際に交流することで、先入観から生まれる偏見を払拭し、よりよい関わり方について考えを深める。

<ゲストティーチャーによる出前授業>

- ・ 地域に暮らす障害がある方やパラリンピックに出場したアスリートを講師に迎え、講話を聞くと共に義足や車いすの体験を行うことで、生活する上での工夫や一つ一つの取り組みに対する努力についての理解を深める。
- ・ また、障害者のガイドヘルプ体験を行うことで、自分との関わりについて考えを深める。

5 本取組・活動の内容



「体験の様子」

- ・ 高齢者・障害者疑似体験セットを身につけて校内を歩いた。普段は気付かない段差の不便さや手すりの有用性に気付き、バリアフリーの必要性について考えを繋げた。
- ・ その後、街中や施設においてどのような取組がなされている調べ、報告会を行った。



「パラリンピアン」の講演の様子」

- ・ パラリンピアンを講師に迎え、講話を聞いた。障害を負った時の挫折や、そこから前向きに取り組んできた経験を聞くことで、障害者に対する認識を深めることができた。
- ・ また、義足体験では、障害者スポーツについて知るとともに、一緒に運動を楽しむことができた。



「地域の方」の講演の様子」

- ・ NGO団体を通じて、地域の障害がある方を招き講話を聞いた。普段の生活や、障害者ならではの苦労や、それに対する対応方法などを知ることで、障害に対する認識を深めることができた。
- ・ また、介助をするガイドヘルプ体験では、障害者の視点で身の回りを見直すことができ、バリアフリーの大切さを実感することができた。

6 成果

- ・ 高齢者や障害者をより身近に感じることができ、それらの人々の問題について必要感をもって考えることができた。
- ・ 実際にパラリンピックに出場した選手から直接講話を聞くことで、障害があっても自分たちと同じように夢を追いかけ、努力し、実現させていることを知り、障害者に対する認識を深めることができた。
- ・ 様々な体験を通して、身の回りの福祉のあり方について考えることができ、街中や施設について、バリアフリーの視点を伴って捉え直すことができた。
- ・ ガイドヘルプなどの活動を通して、障害者を介助する具体的な方法や注意点を学ぶことができた。